様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３７１１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８０８２４

研究課題名（和文）チームケアによる乳幼児の保健福祉支援プログラム開発に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Development of Health and Welfare Support Program for Infants by Team-Care

研究代表者
益満　孝一（MASAMITSU, KOICHI）

筑紫女学園大学・人間科学部・教授

研究者番号：４０２９６３７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では乳児院から児童養護施設等への措置変更に伴う子どもの環境移行の課題と支援を事例研究などにより明らかにした。乳児院入所初期からアセスメントをもとに，乳幼児の関心を大まかに判別することで，児童養護施設への保育士等の移行支援がより有効を高めることが分かった。この判別とは，乳幼児の関心が「人かものか」というおおまかな判別を手がかりに行うことである。つまり，乳幼児の関心は①人と人が代替する「社会的環境への関心」，②ものなど人以外の「物理的環境への関心」に大まかに判別でき，その関心を核として保育士の移行支援をプログラムすることで子どもの心理的負担の少ない移行となることが見いだされた。

研究成果の概要（英文）：Through a case study, this study revealed issues and supportive means for children’s transfer as a result of modified measures toward infant and children’s homes. Evidence revealed the assessment that establishing an infant’s interests at an early stage of admission to an infant home can heighten the effectiveness of childcare workers’ supportive measures during later transfer to a children’s home. Such assessment is usually a clue-gathering process to determine whether a child’s interest lies with “people” or “objects.” In other words, a child’s emotional stress during transfer can be effectively reduced by first determining whether its interest lies with: ① humans and a “social environment” or ② a “physical environment” consisting of inhuman objects, and then by designing a supportive program for childcare workers based on the finding.

研究分野：社会福祉

キーワード：乳幼児　チームケア

１．研究開始当初の背景

１．研究の学術的背景

近年，虐待を受けた子どもの入所割合は乳児院で 34.6%，児童養護施設で 59.2%(平成 19 年度社会的養護施設に関する実態調査，2008.3.1 現在)と増加している。被虐待児について山崎は，虐待を受けたことによる目に見える傷害だけでなく，トラウマなどの状態にある」,「生きていくうえで，さまざまな問題を乗り越えるうえでも，安定した養育環境のなかで，愛着形成の基盤を創生し直すことは必要不可欠なことである。そのために，安定した二者関係による愛着形成が必要であり，愛着形成の対象者である保育者の質の確保が必要である。」と指摘している(山崎・益満ら,2009)。また，全国乳児福祉協議会制度対策研究委員会委員長今田義夫は，「乳児院入所の低年齢児化の傾向，乳幼児の被虐待，また障がいのある乳幼児や，心身の発達に課題がある乳幼児，医療的ケアを必要とする乳幼児など，子ども一人ひとりの発達やその状態に応じたきめ細やかな養育・ケアや治療を求められる」が現状の養育体制では十分対応できない点，さらに「乳児院においては看護師等の人材確保の困難や不足や離職の問題」を指摘している(今田・益満ら,2010)。

平成 22 年 1 月に閣議決定された子ども・子育てビジョンでは社会保障審議会児童部社会的養護専門委員会の報告書を受けて「児童虐待を防止するとともに，社会的養護を必要とする子どもの増加や多様化に対応するため，専門的なケアや自立支援に向けた取組，継続的・安定的な環境での支援の確保等，子どもの状態や年齢に応じた適切なケアを実施できるよう，社会的養護に関する現行の施設機能の在り方の見直しや体制の充実が検討」され，「支援が必要な子どもが健やかに育つように，地域において障害のある子どもとその家族を支えていく体制を整備するとともに，乳児期，就学前，学齢期，青年期，成年期などライフステージに応じて，保健・医療・福祉・教育・就労などの連携した支援」が図られることになった。愛着や児童虐待，発達障害等の先行研究は多数ある。しかし，子どもの発達促進を支援する専門職の質を高め，チームケアによる支援プログラムは見当たらない。研究代表者・分担研究者は乳児院・児童養護施設等の子どもとその家族への支援，専門職養成に関連する研究に携わってきた。児童虐待，発達障害，愛着障害，未熟児等の困難を抱える乳幼児への生活支援の課題について包括的保健福祉支援による予防的介入や発達保障支援の在り方を保健・医療・福祉等による学際的研究をしてきた(愛着形成関連：山崎・益満ら,2009;斎藤・益満ら,2009，子ども家庭再統合関係：西原尚之・益満孝一(2009)；猪谷生美・益満孝一(2008)，発達障害や児童虐待児への対応：西原尚之ら(2008)。本研究は，保健福祉を包括した研究として乳児院から児童養護施設等への措置変更前とその後について，保育者との愛着関係，発達検査，発達・発育等に関する子どもの保健福祉的ニードを明らかにし，子ども自身の最善の利益をめざすものである。さらに，社会福祉士・保育士・看護師・心理療法担当職員（臨床心理士）等の発達支援に関する専門職のチームケアによる保健福祉支援のプログラム開発を目的とする。

２．研究の目的

『チームケアによる乳幼児の保健福祉支援プログラム開発に関する研究』は，児童虐待，発達障害，愛着障害，未熟児等で困難を抱える乳幼児への生活支援の課題，さらに，乳児院から児童養護施設等への措置変更に伴う子どもの環境移行の問題と課題を明らかにし，包括的な保健福祉支援により予防的介入や発達保障支援の在り方を明らかにする研究である。

本研究は乳児院入所から児童養護施設等への措置変更前とその後について，保育者との愛着関係，発達検査，発達・発育等に関して，乳幼児の保健福祉的ニードを明らかにし，子どもの最善の利益をめざすものである。さらに，社会福祉士・保育士・看護師・臨床心理士等の発達支援専門職のチームケアによる保健福祉支援のプログラム開発を目的とする。

３．研究の方法

本研究の成果として発表した主なものについて報告する。

乳児院で分担研究者と事例検討会によるスーパーバイザーとしての研究活動などを行った。また，乳児院の施設心理士と乳児院から児童養護施設への措置変更の事例について，乳幼児の資質を含めた類型化とその支援について検討した。その成果について，次に掲載する。

４．研究成果

第１に乳児院で分担研究者と事例検討会(月３回，年間 30 回)によるスーパーバイザーとしての研究活動および分担研究者による研究協議により，乳幼児の生活支援課題を明確化することができた。個別支援計画，養育計画の作成過程において，保育者との愛着関係，発達検査，発達・発育等に関して，乳幼児の保健福祉的ニードと，保育士の関わり方などについて助言指導を行うことで，乳幼児の健全な発達促進，子ども同士の関係の促進，家族再統合への保育士のあり方についての支援，発達障害および知的障害，および疑いある子どもの措置延長についても効果を発揮し，子どもの健やかな発達保障ができた。この措置変更に伴う課題も明らかになった。

第２に乳児院・児童養護施設の５施設合同の心理士勉強会に参加し，措置変更に伴う子どもの環境移行の問題と課題について，子どもの事例研究をもとに検討し明確化できた（月１回，年間 10 回)。

第３に，本研究活動で得られた知見を研究者が招聘された施設等の研修会，県の児童養護施設研修，特別養子縁組研修などの内容として提示して実効性のある「保健福祉支援プログラム」を開発し，研究成果の講演会を開くなどでその成果を発信した。平成 28 年度は県の児童養護施設心理部主催の研修会での研修成果の発表の機会がある。

今後，本研究の成果をさらに発展させ，措置児童だけでなく，一時保護時の乳幼児において，保育士を中心とする移行支援において，乳幼児の負担軽減と，保育士などの支援の質の向上に寄与したい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0 件）

〔学会発表〕（計　6 件）

①<u>益満孝一</u>，筑紫女学園大学 生涯学習センター　大学院入門講座「人間理解と支援」移行期における支援について－乳幼児期の理解と支援－，太宰府市いきいき情報センター（2015）

②<u>益満孝一</u>，児童虐待に関する意識向上と連携（70 分），小郡市要保護児童対策地域協議会主催（会場小郡市あすてらす），（2014）＜招待講演＞

③<u>益満孝一</u>，子どもの理解と支援について－生活施設におけるソーシャルワーカーの支援について，平成 26 年度　熊本県養護協議会主催児童指導員会研修会，（2014）＜招待講演＞

④<u>益満孝一</u>，乳児院職員のメンタルヘルス－乳児院での事例検討会，心理士勉強会の経験をもとに－，九州乳児福祉協議会　第２８回

九州乳児院職員研究大会　記念講演,（2014）＜招待講演＞
⑤益満孝一，養子縁組（特別養子縁組含む）里親　親子関係について－父母のメンタルヘルスを考える，熊本乳児院主催　平成 25 年度第２回さとおやきっさ　特別養子縁組研修,（2014）＜招待講演＞
⑥猪谷生美，稲富憲朗，益満孝一：乳児院での親子の関係性支援　乳児院での親子のエンパワメント力を育む家族支援の実際, 第 26 回　日本保健福祉学会学術集会，2013.【査読あり】

〔図書〕（計　１　件）
①益満孝一：第６章障害児者を支える保健福祉　第１節障害者の地域移行・地域定着に向けた支援，日本保健福祉学会編，保健福祉学―問題解決に向けた保健と福祉のシステム科学―，北大路書房，p115-119,2015,【査読あり】

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
　現在，制作中。

６．研究組織
(1)研究代表者
　益満　孝一（KOICHI　MASUMITU）
筑紫女学園大学・人間科学部・教授
研究者番号：４０２９６３７２

(2)研究分担者
　西原　尚之（NISHIHARA　NAOYUKI）
筑紫女学園大学・人間科学部・教授
研究者番号：５０３１６１６３
　猪谷　生美(TAKAMI INOTANI)
久留米大学・医学部・専任講師
研究者番号：７０３３１８０８
　潮谷　恵美(Emi SHIOTANI)
十文字学園女子大学・人間生活学部・准教授
研究者番号：７０２８７９１０
　稲富　憲朗(NORIAKI INADOMI)
福岡女学院大学・人間関係学部・専任講師
研究者番号：６０６３６６１１

(3)連携研究者
　　なし